立石寺

平泉を後にした芭蕉と曾良は、山道を通って出羽国に向かい、※尾花沢にしばらくとどまりました。

山形領に※立石寺といふ山寺あり。※慈覚大師の開基にして、
慈覚大師の開かれた寺で、
殊に清閑の地なり。一見すべきよし、人々の勧むるによつて、
とりわけ清く静かな土地である。
①尾花沢よりとつて返し、その間七里ばかりなり。
引き返し(たが)、(尾花沢から立石寺の)その間は七里ほどである。
日いまだ暮れず。麓の※坊に宿借り置きて、山上の堂に登る。
(到着した時には)日はまだ暮れていない。
岩に巌を重ねて山とし、松柏年ふり、土石老いて、
岩の上に大きな岩が重なって山となっていて、松やひのきも年月がたち、土も石も古びて、
苔滑らかに、岩上の院々扉を閉ぢて物の音聞こえず。
苔が滑らかにおおい、岩の上の十二院は扉を閉じていて物音も聞こえない。
岸を巡り岩を這ひて仏閣を拝し、
崖のふちをめぐって岩の上をはうようにして仏閣に参拝したが、
②佳景寂寞として心澄みゆくのみおぼゆ。
ただただ心が澄みわたるように感じられる。

I 閑かさや岩にしみ入る蝉の声
なんという静けさだろう。ただ岩にしみ入るように蝉の声だけが聞こえている。

この後、芭蕉と曾良は、最上川を舟で下りました。

※尾花沢…現在の山形県尾花沢市。現在は「おばなざわ」と呼ぶ。
立石寺…現在の山形県山形市にある天台宗の寺。現在は「りっしゃくじ」と称される。
慈覚大師…平安時代初期の僧、円仁。
坊…宿坊。参詣者なども宿泊した。

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 立石寺は慈覚大師が開いた山寺で、山形領にある。
イ 芭蕉が立石寺に着いた時にはもう日が暮れていた。
ウ 山の上の堂の近くの木々は若々しく、苔ひとつなかった。

[　　]

(2) ――線①「尾花沢よりとつて返し」とあるが、なぜ尾花沢から立石寺に向かったのか。適当なものを選びなさい。

ア 慈覚大師にお会いしようと思ったから。
イ 一度は立石寺を見るべきだと人々が勧めたから。
ウ 立石寺の山のふもとにある宿に泊(と)まろうと思ったから。

[　　]

(3) ――線②「佳景寂寞」とはどのような様子か。適当なものを選びなさい。

ア すばらしい景色が、ひっそりと静まり返る様子。
イ みすぼらしい景色が、さびしく広がる様子。
ウ 山寺らしい景色が、雄大(ゆうだい)に連なる様子。

[　　]

(4) Ⅰの句に含(ふく)まれる季語と、季語が表す季節を答えなさい。

季語[　　]　季節[　　]

(5) Ⅰの句に含まれる切れ字を書きぬき、句切れの種類を記号で答えなさい。

切れ字[　　]　句切れ[　　]

ア 初句切れ　イ 二句切れ　ウ 句切れなし